

■SUBARU 環境保全自主取り組み計画

第5次環境ボランティアプラン（2012～2016年度）

【1】地球温暖化

領域	項目	2016年度までの目標・取り組み	2016年度				
			目標	年度実績	評価		
A クリーンな商品	燃費の向上	◆フルモデルチェンジおよび年次改良ごとの継続的な燃費改善を図る	◇環境エンジン/CVTへの刷新、燃費性能を従来車比30%向上させる ◇水平対向直噴ターボエンジンの市場導入	・環境エンジン、CVTを搭載した次期インプレッサを市場投入する。	・新型インプレッサを国内から投入し、グローバルに市場投入した。	—	
		◆各国、各地域燃費/温室効果ガス基準に向けた燃費改善を推進	◇日本：2015年燃費基準の確実な達成 ◇海外：各地域燃費/温室効果ガス基準の確実な達成	・引き続き、各国地域のモニタリングを継続して実施する。	・日本：対象9区分中8区分で2015年度燃費基準を達成した。 ・欧州：規制値に対し過達した。 ・中国：2016年燃費規制を達成した。	○	
	クリーンエネルギーの利用	◆ハイブリッド自動車の市場導入	◇2013年にハイブリッド車を日本市場に導入	・先行開発から量産化開発のフェーズに移行し、設計仕様の精度アップと生産性を含めた見直し付けを図る。	・計画通り性能確認フェーズの確認が完了し、生産開発完了確認のフェーズに移行した。	○	
		◆電気自動車の市場導入を目指した研究を行なう	◇電気自動車の研究を推進	・電気自動車の市場導入に向けた研究を継続して推進する。	・次年度からの車両先行開発に向けて、基礎開発を完了させると共に、電動化部品試作に着手した。	○	
		◆ディーゼルエンジンの改良・市場展開を推進	◇水平対向ディーゼルエンジンのユーロ6対応の推進	(第5次ボランティアプランの最終目標を1年前倒して達成済み)	(第5次ボランティアプランの最終目標を1年前倒して達成済み)	—	
	エアコン冷媒に係る地球温暖化の抑制	自動車	◆汎用エンジンと電子制御との融合による、排ガス低減と燃費向上技術の確立を推進	◇燃料噴射汎用エンジンの機種展開と市場導入拡大を推進	・フィードバック制御技術による排出ガスの低減と燃費の向上に取り組む。	・燃料噴射システムにフィードバック制御を導入し、空燃比最適化試験を完了した。	○
			◆低温暖化係数冷媒エアコンの開発を推進	◇低温暖化係数エアコンの開発を更に推進	・低温暖化係数エアコンの開発を更に推進する。	・低温暖化係数エアコンの拡大展開に向け、計画通り開発を推進した。	○
B クリーンな工場 ・物流・オフィス	生産工場	◆国内生産工場からの生産額あたりCO <sub>2</sub> 排出量を削減	◇国内生産工場からの生産額あたりCO <sub>2</sub> 排出量を2016年度迄に2006年度比10%削減	・国内生産工場からの生産額あたりCO <sub>2</sub> 排出量を2006年度比10%削減する。	・国内生産工場からの生産額あたりCO <sub>2</sub> 排出量を2006年度比43.0%削減した。	○	
		◆海外生産工場※からのCO <sub>2</sub> 排出量の削減活動を推進	◇海外生産工場からのCO <sub>2</sub> 排出量の中期目標を設定継続的な削減活動を推進	・工場拡張のためCO <sub>2</sub> 排出総量は増加。251,151-CO <sub>2</sub> を目標とする。	・実績191,031t-CO <sub>2</sub> で目標達成した。	○	
	物流	◆省エネ法と同期したCO <sub>2</sub> 削減への対応推進	◇CO <sub>2</sub> 排出原単位を2006年度をBMとし、毎年度▲1%低減	・CO <sub>2</sub> 排出原単位について、2006年度を基点として▲10%の低減を目指す。(完成車年度目標値：CO <sub>2</sub> 原単位30.94kg/台)	・CO <sub>2</sub> 排出量(原単位)、「完成車」「CKD」「部品用品」いずれも目標達成した。 ・「完成車」CO <sub>2</sub> 排出量原単位は2006年度を基点として▲10%の低減を達成した。(年度目標値：CO <sub>2</sub> 原単位30.94kg/台に対して26.23kg/台)	○	
	オフィス	◆省エネ法への確実な対応の実施	◇エネルギー使用原単位を2009年度をBMとし、毎年度▲1%低減(オフィスを含めた事業者全体として)	・原単位を年平均▲1%削減する。	・事業者全体としてBM年から年平均▲1%削減を達成した。	○	

※ SIA : Subaru of Indiana Automotive, Inc.